○有機加工食品の日本農林規格(平成17年10月27日農林水産省告示第1606号)

(下線部分は改正部分)

改止後	攻止則

有機加工食品の日本農林規格

(目的)

第1条 この規格は、有機加工食品の生産の方法についての基準等を定めることを目的とする。

(有機加工食品の生産の原則)

第2条 有機加工食品は、原材料である有機農産物の日本農林規格(平成17年10月27日農林水産省告示第1605号)第3条に規定する有機農産物(以下「有機農産物」という。)及び有機畜産物の日本農林規格(平成17年10月27日農林水産省告示第1608号)第3条に規定する有機畜産物(以下「有機畜産物」という。)の有する特性を製造又は加工の過程において保持することを旨とし、物理的又は生物の機能を利用した加工方法を用い、化学的に合成された添加物及び薬剤の使用を避けることを基本として、生産することとする。

(新設)

(定義)

第3条 この規格において、次の表左欄の用語の定義は、それぞれ同表右欄のとおりとする。

用語	定	義
有機加工食品	次条の基準に従い生産された加工食品であ	って、原材料(食塩及び水を除
	く。)及び添加物(加工助剤を除く。)の重	宣量に占める農産物(有機農産物
	を除く。)、畜産物(有機畜産物を除く。)	、水産物及びこれらの加工品並
	びに添加物(有機加工食品として格付された	二一般飲食物添加物(一般に食品
	として飲食に供されている物であって添加物	かとして使用されるものをいう。
	以下同じ。)及び加工助剤を除く。)の重量	量の割合が5%以下であるものを
	いう。	
有機農産物加工食	有機加工食品のうち、原材料(食塩及び水を	と除く。)及び添加物(加工助剤
品	を除く。)の重量に占める農産物(有機農産	き物を除く。)、畜産物、水産物
	及びこれらの加工品並びに添加物(有機加工	二食品として格付された一般飲食
	物添加物及び加工助剤を除く。)の重量の	割合が5%以下であるものをい
	う。	
有機畜産物加工食	有機加工食品のうち、原材料(食塩及び水を	除く。)及び添加物(加工助剤

有機加工食品の日本農林規格

(目的)

第1条 この規格は、有機加工食品の生産の方法についての基準等を定めることを目的とする。

(有機加工食品の生産の原則)

第2条 有機加工食品は、原材料である有機農産物の日本農林規格(平成17年10月27日農林水産省告示第1605号)第3条に規定する有機農産物(以下「有機農産物」という。)及び有機畜産物の日本農林規格(平成17年10月27日農林水産省告示第1608号)第3条に規定する有機畜産物(以下「有機畜産物」という。)の有する特性を製造又は加工の過程において保持することを旨とし、物理的又は生物の機能を利用した加工方法を用い、化学的に合成された添加物及び薬剤の使用を避けることを基本として、生産することとする。

(新設)

(定義)

第3条 この規格において、次の表左欄の用語の定義は、それぞれ同表右欄のとおりとする。

用語	定	義
有機加工食品	次条の基準に従い生産された加工食品で	であって、原材料(食塩及び水を除
	く。)及び添加物(加工助剤を除く。)	の重量に占める農産物(有機農産物
	を除く。)、畜産物(有機畜産物を除く	。)、水産物及びこれらの加工品並
	びに添加物(有機加工食品として格付さ	れた一般飲食物添加物(一般に食品
	として飲食に供されている物であって添	動物として使用されるものをいう。
	以下同じ。)及び加工助剤を除く。)の	重量の割合が5%以下であるものを
	いう。	
有機農産物加工食	有機加工食品のうち、原材料(食塩及び	が水を除く。)及び添加物(加工助剤
品	を除く。)の重量に占める農産物(有機	と農産物を除く。)、畜産物、水産物
	及びこれらの加工品並びに添加物(有機	約加工食品として格付された一般飲食
	物添加物及び加工助剤を除く。)の重量	量の割合が5%以下であるものをい
	う。	
有機畜産物加工食	有機加工食品のうち、原材料(食塩及び	『水を除く。)及び添加物(加工助剤

品	を除く。)の重量に占める農産物、畜産物(有機畜産物を除く。)、水産物及びこれらの加工品並びに添加物(有機加工食品として格付された一般飲食物添加物及び加工助剤を除く。)の重量の割合が5%以下であるものをいう。		
有機農畜産物加工	有機加工食品のうち、有機農産物加工食品及び有機畜産物加工食品以外のものない。		
食品	のをいう。		
化学的処理	次のいずれかに該当することをいう。		
	1 化学的手段(燃焼、焼成、溶融、乾留及びけん化を除く。以下同じ。)		
	によって、化合物を構造の異なる物質に変化させること。		
	2 化学的手段により得られた物質を添加すること(最終的な製品に当該物		
	質を含有しない場合を含む。)。		
遺伝子操作・組換 交配又は自然な組換えによって自然に生じることのない方法によって			
え技術	質を変化させる技術(組換えDNA、細胞融合、ミクロインジェクション、		
	マクロインジェクション、被包化、遺伝子欠失、遺伝子の倍加等を含み、接		
	合、形質導入及び交雑等を除く。)をいう。		
転換期間中有機農	有機農産物の日本農林規格第4条の表ほ場の項基準の欄2に規定する転換期		
産物	間中のほ場において生産された農産物をいう。		

(生産の方法についての基準)

第4条 有機加工食品の生産の方法についての基準は、次のとおりとする。

事 項	定	義		
原材料及び添加物	次に掲げるものに限り使用することができる。	ただし、2又は4に掲げるも		
(加工助剤を含┃のについては、使用する原材料と同一の種類の有機農産		の有機農産物、有機畜産物又は		
む。)	有機加工食品の入手が困難な場合に限る。			
	1 以下のうち、その包装、容器又は送り状	こ格付の表示が付されているも		
	の。ただし、その有機加工食品を製造し、	又は加工する者により生産さ		
	れ、日本農林規格等に関する法律(昭和25年	年法律第175号)第10条又は第3		
	0条の規定により格付されたものにあっては	この限りでない。		
	(1) 有機農産物			
	(2) 有機加工食品			
	(3) 有機畜産物			
	2 1以外の農畜産物。ただし、以下のもの	を除く。		
	(1) 原材料として使用した有機農産物及び有機畜産物と同一の種類の農			
	畜産物			
	(2) 放射線照射が行われたもの			
	(3) 遺伝子操作・組換え技術を用いて生産されたもの			
	3 水産物(放射線照射が行われたもの及び遺伝子操作・組換え技術を用い			
	て生産されたものを除く。)			

品	を除く。) の重量に占める農産物、畜産物(有機畜産物を除く。)、水産物 及びこれらの加工品並びに添加物(有機加工食品として格付された一般飲食		
	物添加物及び加工助剤を除く。) の重量の割合が5%以下であるものをい		
	j.		
有機農畜産物加工	有機加工食品のうち、有機農産物加工食品及び有機畜産物加工食品以外のも		
食品	のをいう。		
化 学 的 処 理	次のいずれかに該当することをいう。		
	1 化学的手段(燃焼、焼成、溶融、乾留及びけん化を除く。以下同じ。)		
	によって、化合物を構造の異なる物質に変化させること。		
	2 化学的手段により得られた物質を添加すること(最終的な製品に当該物		
	質を含有しない場合を含む。)。		
組換えDNA技術	酵素等を用いた切断及び再結合の操作によって、DNAをつなぎ合わせた組		
	換えDNA分子を作製し、それを生細胞に移入し、かつ、増殖させる技術を		
	<u>いう。</u>		
転換期間中有機農	有機農産物の日本農林規格第4条の表ほ場の項基準の欄2に規定する転換期		
産物	間中のほ場において生産された農産物をいう。		

(生産の方法についての基準)

第4条 有機加工食品の生産の方法についての基準は 次のとおりとする

₹,			
ŧ			
_			
は			
ŧ			
さ			
₹3			
(1) 有機農産物 (2) 有機加工食品			
(3) 有機畜産物			
2 1以外の農畜産物。ただし、以下のものを除く。			
(1) 原材料として使用した有機農産物及び有機畜産物と同一の種類の農			
(2) 放射線照射が行われたもの			
(3) 組換えDNA技術を用いて生産されたもの			
3 水産物 (放射線照射が行われたもの及び組換えDNA技術を用いて生産			
されたものを除く。)			
) iii.			

	4 農畜水産物の加工品(1に掲げるもの((2)に掲げるものに限る。)、 原材料として使用した有機加工食品と同一の種類の加工食品、放射線照射 が行われたもの及び <u>遺伝子操作・組換え技術</u> を用いて生産されたものを除 く。) 5 食塩 6 水 7 別表1の添加物( <u>遺伝子操作・組換え技術</u> を用いて製造されたものを除 く。以 下同じ。)
原材料及び添加物	原材料(食塩及び水を除く。)及び添加物(加工助剤を除く。)の重量に占
の使用割合	めるこの表原材料及び添加物(加工助剤を含む。)の項基準の欄2、3、4
	及び7 (有機加工食品として格付された一般飲食物添加物及び加工助剤を除
Hal Silver Land	く。)に掲げるものの重量の割合が5%以下であること。
製造、加工、包	1 製造又は加工は、物理的又は生物の機能を利用した方法(遺伝子操作・
装、保管その他の	組換え技術を用いて生産された生物を利用した方法を除く。以下同じ。)
工程に係る管理	によることとし、添加物を使用する場合は、必要最小限度とすること。
	2 原材料として使用される有機農産物、有機加工食品及び有機畜産物は、
	他の農畜産物又はその加工食品が混入しないように管理を行うこと。
	3 有害動植物の防除は、物理的又は生物の機能を利用した方法によること。 と。ただし、物理的又は生物の機能を利用した方法のみによっては効果が
	こ。たたし、物理的又は生物の機能を利用した方法のみにようでは効果が 不十分な場合には、別表2の薬剤並びに食品及び添加物(これらを原材料
	・
	するものを除く。)に限り使用することができる。この場合においては、
	原材料、添加物及び製品への混入を防止すること。
	4 3の方法のみによっては有害動植物の防除の効果が不十分な場合には、
	有機加工食品を製造し、又は保管していない期間に限り、別表2に掲げら
	れていない薬剤を使用することができる。この場合においては、有機加工
	食品の製造開始前に、これらの薬剤を除去すること。
	5 有害動植物の防除、食品の保存又は衛生の目的での放射線照射を行わな
	いこと。
	6 この表原材料及び添加物(加工助剤を含む。)の項の基準及びこの項1
	から5までに掲げる基準に従い製造され、又は加工された食品が農薬、洗
	浄剤、消毒剤その他の資材により汚染されないように管理を行うこと。

# (有機加工食品の表示)

料名の表示は、次に規定する方法により行うものとする。

区	分	基	準
名	称の表示	<ol> <li>次の例のいずれかにより記載すること。</li> <li>「有機○○」又は「○○(有機)」</li> </ol>	

	4 農畜水産物の加工品(1に掲げるもの((2)に掲げるものに限る。)、 原材料として使用した有機加工食品と同一の種類の加工食品、放射線照射 が行われたもの及び <u>組換えDNA技術</u> を用いて生産されたものを除く。) 5 食塩 6 水 7 別表1の添加物( <u>組換えDNA技術</u> を用いて製造されたものを除く。以 下同じ。)
原材料及び添加物	原材料(食塩及び水を除く。)及び添加物(加工助剤を除く。)の重量に占
の使用割合	めるこの表原材料及び添加物(加工助剤を含む。)の項基準の欄2、3、4
	及び7(有機加工食品として格付された一般飲食物添加物及び加工助剤を除
	く。)に掲げるものの重量の割合が5%以下であること。
製造、加工、包	1 製造又は加工は、物理的又は生物の機能を利用した方法(組換えDNA
装、保管その他の	<u>技術</u> を用いて生産された生物を利用した方法を除く。以下同じ。)による
工程に係る管理	こととし、添加物を使用する場合は、必要最小限度とすること。
	2 原材料として使用される有機農産物、有機加工食品及び有機畜産物は、
	他の農畜産物又はその加工食品が混入しないように管理を行うこと。
	3 有害動植物の防除は、物理的又は生物の機能を利用した方法によるこ
	と。ただし、物理的又は生物の機能を利用した方法のみによっては効果が
	不十分な場合には、別表2の薬剤並びに食品及び添加物(これらを原材料
	として加工したものを含み、農産物に対して病害虫を防除する目的で使用
	するものを除く。)に限り使用することができる。この場合においては、
	原材料、添加物及び製品への混入を防止すること。
	4 3の方法のみによっては有害動植物の防除の効果が不十分な場合には、
	有機加工食品を製造し、又は保管していない期間に限り、別表2に掲げら
	れていない薬剤を使用することができる。この場合においては、有機加工
	食品の製造開始前に、これらの薬剤を除去すること。
	5 有害動植物の防除、食品の保存又は衛生の目的での放射線照射を行わな
	いこと。
	6 この表原材料及び添加物(加工助剤を含む。)の項の基準及びこの項1
	から5までに掲げる基準に従い製造され、又は加工された食品が農薬、洗

# (有機加工食品の表示)

第5条 食品表示基準(平成27年内閣府令第10号)の規定に従うほか、有機加工食品の名称及び原 第5条 食品表示基準(平成27年内閣府令第10号)の規定に従うほか、有機加工食品の名称及び原料 名の表示は、次に規定する方法により行うものとする。

浄剤、消毒剤その他の資材により汚染されないように管理を行うこと。

区				分	基	準
名	称	の	表	示	1 次の例のいずれかにより記載すること。	
					(1) 「有機○○」又は「○○(有機)」	

$(2)    \exists -\exists \exists \neg $	9,	)	_
--	----	---	---

- (注) 「○○」には、当該加工食品の一般的な名称を記載すること。た だし、有機農畜産物加工食品のうち、「○○」に記載する一般的な 名称が有機農産物加工食品の一般的な名称と同一となるものについ ては、名称又は商品名の表示されている箇所に近接した箇所に、有 機農産物加工食品でないことが分かるように記載すること。
- 2 1の基準にかかわらず、転換期間中有機農産物又はこれを製造若しくは 加工したものを原材料として使用したものにあっては、1の例のいずれか により記載する名称の前又は後に「転換期間中」と記載すること。ただ し、商品名の表示されている箇所に近接した箇所に、背景の色と対照的な 色で、日本産業規格 Z 8305 (1962) に規定する14ポイントの活字以上の大 きさの統一のとれた活字で、「転換期間中」と記載する場合は、この限り でない。

- 原材料名の表示 1 使用した原材料のうち、有機農産物(転換期間中有機農産物を除 く。)、有機加工食品(転換期間中有機農産物を原材料としたものを除 く。) 又は有機畜産物にあっては、その一般的な名称に「有機」等の文字 を記載すること。
  - 2 転換期間中有機農産物又はこれを製造若しくは加工したものを原材料と して使用したものにあっては、1の基準により記載する原材料名の前又は 後に「転換期間中」と記載すること。ただし、商品名の表示されている箇 所に近接した箇所に、背景の色と対照的な色で、日本産業規格 Z8305 (19 62) に規定する14ポイントの活字以上の大きさの統一のとれた活字で、 「転換期間中」と記載する場合は、この限りでない。

## 別表 1 添加物

/J	1111	かいいけん			
	INS	添加	物	基	準
	番号				
	330	クエン	/酸	pH調整剤として使用するもの又は野乳	菜の加工品若しくは果実の加工品に使用
				する場合に限ること。	
	$331\mathrm{iii}$	クエン	酸ナ	ソーセージ、卵白の低温殺菌又は乳	製品に使用する場合に限ること。
		トリウ	ム		
	296	DL-	リン	農産物の加工品に使用する場合に限る	ること。
		ゴ酸			
	270	乳	酸	野菜若しくは米の加工品に使用する場	場合,ソーセージのケーシングに使用す
				る場合、凝固剤として乳製品に使用	する場合又はpH調整剤としてチーズの
				塩漬に使用する場合に限ること。	
	300	L一ア	スコ	農産物の加工品に使用する場合に限る	ること。
		ルビン	酸		
	301	L-ア	スコ	食肉の加工品に使用する場合に限る	<u>-</u> と。
		ルビン	酸ナ		

### (2) 「オーガニック○○」又は「○○(オーガニック)」

- (注) 「○○」には、当該加工食品の一般的な名称を記載すること。た だし、有機農畜産物加工食品のうち、「○○」に記載する一般的な 名称が有機農産物加工食品の一般的な名称と同一となるものについ ては、名称又は商品名の表示されている箇所に近接した箇所に、有 機農産物加工食品でないことが分かるように記載すること。
- 2 1の基準にかかわらず、転換期間中有機農産物又はこれを製造若しくは 加工したものを原材料として使用したものにあっては、1の例のいずれか により記載する名称の前又は後に「転換期間中」と記載すること。ただ し、商品名の表示されている箇所に近接した箇所に、背景の色と対照的な 色で、日本産業規格 Z 8305 (1962) に規定する14ポイントの活字以上の大 きさの統一のとれた活字で、「転換期間中」と記載する場合は、この限り でない。

- 原材料名の表示 1 使用した原材料のうち、有機農産物(転換期間中有機農産物を除 く。)、有機加工食品(転換期間中有機農産物を原材料としたものを除 く。) 又は有機畜産物にあっては、その一般的な名称に「有機」等の文字 を記載すること。
  - 2 転換期間中有機農産物又はこれを製造若しくは加工したものを原材料と して使用したものにあっては、1の基準により記載する原材料名の前又は 後に「転換期間中」と記載すること。ただし、商品名の表示されている箇 所に近接した箇所に、背景の色と対照的な色で、日本産業規格 Z8305 (19 62) に規定する14ポイントの活字以上の大きさの統一のとれた活字で、 「転換期間中」と記載する場合は、この限りでない。

# 即実1 活加物

別表Ⅰ	添加物		
INS	添 加 物	基	
番号			
330	クエン酸	pH調整剤として使用するもの又は野菜の加工品若しくは果実の加工品に	こ使用
		する場合に限ること。	
331 iii	クエン酸ナ	ソーセージ、卵白の低温殺菌又は乳製品に使用する場合に限ること。	
	トリウム		
296 DL一リン 農産物の加工品に使用する場合に限ること。		農産物の加工品に使用する場合に限ること。	
	ゴ酸		
270	乳 酸	野菜若しくは米の加工品に使用する場合、ソーセージのケーシングに使	吏用す
		る場合、凝固剤として乳製品に使用する場合又はpH調整剤としてチース	ズの塩
		漬に使用する場合に限ること。	
300	L―アスコ	農産物の加工品に使用する場合に限ること。	
	ルビン酸		
301	L―アスコ	食肉の加工品に使用する場合に限ること。	
	ルビン酸ナ		

	トリウム	
	タンニン	ろ過助剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	(抽出物)	
513	硫 酸	pH調整剤として砂糖類の製造における抽出水のpH調整に使用する場合に限ること。
500 i	炭酸ナトリ ウム	菓子類,砂糖類,豆類の調製品,麺・パン類又は中和剤として乳製品に使用する場合に限ること。
500 ii	炭酸水素ナ トリウム	菓子類,砂糖類,豆類の調製品,麺・パン類,飲料,野菜の加工品,果実の加工品又は中和剤として乳製品に使用する場合に限ること。
501 i	炭酸カリウム	果実の加工品の乾燥に使用する場合又は穀類の加工品、砂糖類、豆類の調製品、麺・パン類若しくは菓子類に使用する場合に限ること。
170 i	炭酸カルシ ウム	高産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品に使用するもの(着色料としての使用は除く。)又は凝固剤としてチーズ製造に使用するものに限ること。
503 i	炭酸アンモ ニウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
503 ii	-	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
504 i	炭酸マグネ シウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
508	塩化カリウム	野菜の加工品,果実の加工品,食肉の加工品,調味料又はスープに使用する 場合に限ること。
509	塩化カルシ ウム	農産物の加工品の凝固剤及びチーズ製造の凝固剤として使用する場合又は食用油脂,野菜の加工品,果実の加工品,豆類の調製品,乳製品若しくは食肉の加工品に使用する場合に限ること。
511	塩化マグネ シウム	農産物の加工品の凝固剤として使用する場合又は豆類の調製品に使用する場合に限ること。
	粗製海水塩 化マグネシ ウム	農産物の加工品の凝固剤として使用する場合又は豆類の調製品に使用する場合に限ること。
524	水酸化ナトリウム	pH調整剤として砂糖類の加工に使用する場合又は穀類の加工品に使用する場合に限ること。
525	水酸化カリウム	pH調整剤として砂糖類の加工に使用する場合に限ること。
526	水酸化カルシウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
334	L-酒石酸	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
335 ii	L-酒石酸 ナトリウム	菓子類に使用する場合に限ること。
336i		穀類の加工品又は菓子類に使用する場合に限ること。

	トリウム	
	タンニン	ろ過助剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	(抽出物)	
513	硫 酸	pH調整剤として砂糖類の製造における抽出水のpH調整に使用する場合に限る こと。
500 i	炭酸ナトリ ウム	菓子類、砂糖類、豆類の調製品、麺・パン類又は中和剤として乳製品に使用 する場合に限ること。
500 ii 炭酸水素ナ 菓子類、砂糖類、豆類の調製品、麺・パン類、飲料、野		菓子類、砂糖類、豆類の調製品、麺・パン類、飲料、野菜の加工品、果実の加工品又は中和剤として乳製品に使用する場合に限ること。
501 i	炭酸カリウム	果実の加工品の乾燥に使用する場合又は穀類の加工品、砂糖類、豆類の調製品、麺・パン類若しくは菓子類に使用する場合に限ること。
170 i	炭酸カルシ ウム	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品に使用するもの(着色料としての使用は除く。)又は凝固剤としてチーズ製造に使用するものに限ること。
503 i	炭酸アンモ ニウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
503 ii	炭酸水素ア ンモニウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
504 i	炭酸マグネ シウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
508	塩化カリウム	野菜の加工品、果実の加工品、食肉の加工品、調味料又はスープに使用する 場合に限ること。
509	塩化カルシ ウム	農産物の加工品の凝固剤及びチーズ製造の凝固剤として使用する場合又は食用油脂、野菜の加工品、果実の加工品、豆類の調製品、乳製品若しくは食肉の加工品に使用する場合に限ること。
511	塩化マグネ シウム	農産物の加工品の凝固剤として使用する場合又は豆類の調製品に使用する場合に限ること。
	粗製海水塩 化マグネシ ウム	農産物の加工品の凝固剤として使用する場合又は豆類の調製品に使用する場合に限ること。
524	水酸化ナト リウム	pH調整剤として砂糖類の加工に使用する場合又は穀類の加工品に使用する場合に限ること。
525	水酸化カリウム	pH調整剤として砂糖類の加工に使用する場合に限ること。
526	水酸化カルシウム	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
334	L—酒石酸	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
335 ii	L一酒石酸 ナトリウム	菓子類に使用する場合に限ること。
336 i		穀類の加工品又は菓子類に使用する場合に限ること。

	水素カリウ		1 1
	4		
341i	リン酸二水	膨張剤として粉類に使用する場合に限ること。	341
	素カルシウ		
	4		
516	硫酸カルシ	凝固剤として使用する場合又は菓子類、豆類の調製品若しくはパン酵母に使	516
	ウム	用する場合に限ること。	
400	アルギン酸	農産物の加工品に使用する場合に限ること。	400
401	アルギン酸	農産物の加工品に使用する場合に限ること。	401
	ナトリウム		
407	カラギナン	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品に使用するものに限るこ	407
		と。	
410	カロブビー	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品又は食肉の加工品に使用	410
	ンガム	するものに限ること。	
412	グアーガム	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品、缶詰肉又は卵製品に使	412
		用するものに限ること。	
413	トラガント		413
	ガム		
414	アラビアガ	乳製品、食用油脂又は菓子類に使用する場合に限ること。	414
	ム		
415	キサンタン	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品又は菓子類に使用するも	415
	ガム	のに限ること。	
416	カラヤガム	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品又は菓子類に使用するも	416
		のに限ること。	
	カゼイン	農産物の加工品に使用する場合に限ること。	
	ゼラチン	7. V	
440	ペクチン	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品に使用するものに限るこ 、	440
	2- > >		
	エタノール	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、食肉の加工品に使用するものに TRA こ	
2071	2271	限ること。 畜産物の加工品に使用する場合にあっては、食肉の加工品に使用するものに	2071
307b	ミックスト		307b
	コノエロー ル	限ること。	
322	レシチン	   漂白処理をせずに得られたものに限ること。また、畜産物の加工品に使用す	322
344	(植物レシ	る場合にあっては、乳製品、乳由来の幼児食品、油脂製品又はドレッシング	322
	<ul><li>(他物レン</li><li>チン、卵黄</li></ul>	る場合にあっては、礼袋品、孔田米の幼児良品、価値製品又はドレップング	
	レシチン、		
	分別レシチ		
	ン、ヒマワ		

	水素カリウ	
	4	
341 i	リン酸二水	膨張剤として粉類に使用する場合に限ること。
	素カルシウ	
	ム	
516	硫酸カルシ	凝固剤として使用する場合又は菓子類、豆類の調製品若しくはパン酵母に使
	ウム	用する場合に限ること。
400	アルギン酸	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
401	アルギン酸	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	ナトリウム	
407	カラギナン	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品に使用するものに限るこ
		と。
410	カロブビー	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品又は食肉の加工品に使用
	ンガム	するものに限ること。
412	グアーガム	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品、缶詰肉又は卵製品に使
		用するものに限ること。
413	トラガント	
	ガム	
414	アラビアガ	乳製品、食用油脂又は菓子類に使用する場合に限ること。
	ム	
415	キサンタン	
	ガム	のに限ること。
416	カラヤガム	畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品又は菓子類に使用するものは7872.7.1
	カゼイン	のに限ること。 農産物の加工品に使用する場合に限ること。
		7 T T T T T T T T T T T T T T T T T T T
440	ゼラチン	農産物の加工品に使用する場合に限ること。 畜産物の加工品に使用する場合にあっては、乳製品に使用するものに限るこ
440	~ 0 5 2	雷座物の加工品に使用する場合にあつては、孔製品に使用するものに限ること。
	エタノール	ご。       畜産物の加工品に使用する場合にあっては、食肉の加工品に使用するものに
	297 10	限ること。
307b	ミックスト	
0016	コフェロー	限ること。
	ル	
322	レシチン	
	(植物レシ	
	チン、卵黄	に使用するものに限ること。
	レシチン、	·
	分別レシチ	
	ン、ヒマワ	
	リレシチ	

	ン)	
553ii i	タ ル ク	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
558	ベントナイト	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
		農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	ケイソウ土	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	パーライト	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
551	二酸化ケイ 素	ゲル又はコロイド溶液として、農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	活性炭	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
901	ミツロウ	分離剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
903		分離剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	木 灰	天然物質又は化学的処理を行っていない天然物質に由来するものから化学的
		な方法によらずに製造されたものに限ること。また、沖縄そば、米の加工
		品、和生菓子、ピータン若しくはこんにゃくに使用する場合又は山菜類のる
		く抜きに使用する場合に限ること。
	香 料	化学的に合成されたものでないこと。
941	室 素	
948	酸素	
290	二酸化炭素	
	酵 素	
	一般飲食物	
	添加物	
	次亜塩素酸ナトリウム	食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒用又は卵の洗浄用に限ること。
	次亜塩素酸	農産物の加工品に使用する場合 [食塩水(99%以上の塩化ナトリウムを含
	水	する食塩を使用したものに限る。) を電気分解して得られた次亜塩素酸水
		使用する場合に限る。] 又は食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒若しく
		卵の洗浄に使用する場合に限ること。
297	フマル酸	食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒用又は卵の洗浄用に限ること。
365	フマル酸一	食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒用又は卵の洗浄用に限ること。
	ナトリウム	
	オゾン	農産物の加工品に使用する場合又は食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒
		しくは卵の洗浄に使用する場合に限ること。
460ii	粉末セルロース	ろ過助剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
(注)		L ・品添加物の国際番号付与システムにより付与された添加物の番号

(注) INS番号:食品添加物の国際番号付与システムにより付与された添加物の番号

別表 2 薬剤

	ン)	
553 iii	タ ル ク	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
558	ベントナイト	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
559	カオリン	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	ケイソウ土	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	パーライト	農産物の加工品に使用する場合に限ること。
551	二酸化ケイ	ゲル又はコロイド溶液として、農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	素	
		農産物の加工品に使用する場合に限ること。
901	ミツロウ	分離剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
903	カルナウバ	分離剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
	ロウ	
	木 灰	天然物質又は化学的処理を行っていない天然物質に由来するものから化学的
		な方法によらずに製造されたものに限ること。また、沖縄そば、米の加工
		品、和生菓子、ピータン若しくはこんにゃくに使用する場合又は山菜類のあ
		く抜きに使用する場合に限ること。
	香 料	化学的に合成されたものでないこと。
941	室 素	
948	酸素	
290	二酸化炭素	
	酵 素	
	一般飲食物	
	添加物	
	次亜塩素酸	食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒用又は卵の洗浄用に限ること。
	ナトリウム	典文版の加工日は世界と7月入(条件人(000/ NI L の作化上) N カノナ 条之
	次亜塩素酸	農産物の加工品に使用する場合(食塩水(99%以上の塩化ナトリウムを含有する食塩を使用したものに限る。)を電気分解して得られた次亜塩素酸水を
	水	9 る良温を使用したものに限る。)を電気分解して待られた状型温素酸水を 使用する場合に限る。)又は食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒若しくは
297	フマル酸	卵の洗浄に使用する場合に限ること。 食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒用又は卵の洗浄用に限ること。
365	フマル酸一	食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒用又は卵の洗浄用に限ること。
300	ナトリウム	$\mathbb{Z}_{\mathcal{O}}$
	オゾン	農産物の加工品に使用する場合又は食肉の加工品に用いる動物の腸の消毒若
		しくは卵の洗浄に使用する場合に限ること。
460 ji	粉末セルロ	ろ過助剤として農産物の加工品に使用する場合に限ること。
100 11	一ス	SALMANIC CONTRIBUTION OF THE CONTRIBUTION OF CO.
(注)		

(注) INS番号:食品添加物の国際番号付与システムにより付与された添加物の番号

別表 2 薬剤

薬剤	基	準
除虫菊抽出物	共力剤としてピペロニルブトキサー	イドを含まないものに限ること。また,
	農産物に対して病害虫を防除する	目的で使用する場合を除く。
ケイソウ土		
ケイ酸ナトリウム	農産物に対して病害虫を防除する	目的で使用する場合を除く。
重曹		
二酸化炭素		
カリウム石鹸	農産物に対して病害虫を防除する	目的で使用する場合を除く。
(軟石鹸)		
エタノール	農産物に対して病害虫を防除する	目的で使用する場合を除く。
ホ ウ 酸	容器に入れて使用する場合に限る。	こと。また、農産物に対して病害虫を防
	除する目的で使用する場合を除く。	
フェロモン	昆虫のフェロモン作用を有する物質	質を有効成分とする薬剤に限ること。ま
	た、農産物に対して病害虫を防除す	する目的で使用する場合を除く。
カプサイシン	忌避剤として使用する場合に限る。	こと。また、農産物に対して病害虫を防
	除する目的で使用する場合を除く。	
ゼラニウム抽出物	忌避剤として使用する場合に限る。	こと。また、農産物に対して病害虫を防
	除する目的で使用する場合を除く。	,
シトロネラ抽出物	忌避剤として使用する場合に限る	こと。また、農産物に対して病害虫を防
	除する目的で使用する場合を除く。	
(注) 薬剤の使	用に当たっては、薬剤の容器等に表	示された使用方法を遵守すること。

薬剤	基	準
除虫菊抽出物	共力剤としてピペロニルブトキサイド	を含まないものに限ること。また、農
	産物に対して病害虫を防除する目的で	使用する場合を除く。
ケイソウ土		
ケイ酸ナトリウム	農産物に対して病害虫を防除する目的	で使用する場合を除く。
重曹		
二酸化炭素		
カリウム石鹸(軟	農産物に対して病害虫を防除する目的	で使用する場合を除く。
石鹸)		
エタノール	農産物に対して病害虫を防除する目的	で使用する場合を除く。
ホ ウ 酸	容器に入れて使用する場合に限ること	。また、農産物に対して病害虫を防除
	する目的で使用する場合を除く。	
フェロモン	昆虫のフェロモン作用を有する物質を	と有効成分とする薬剤に限ること。ま
	た、農産物に対して病害虫を防除する	目的で使用する場合を除く。
カプサイシン	忌避剤として使用する場合に限ること	。また、農産物に対して病害虫を防除
	する目的で使用する場合を除く。	
ゼラニウム抽出物	忌避剤として使用する場合に限ること	。また、農産物に対して病害虫を防除
	する目的で使用する場合を除く。	
シトロネラ抽出物	忌避剤として使用する場合に限ること	。また、農産物に対して病害虫を防除
	する目的で使用する場合を除く。	